

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1704号 2003年10月14日(火)

週明けのニューヨーク市場は、コロンバス・デーで債券・為替市場は休場ということでしたが、かすかに行われた取引ではドルは堅調に推移しました。ドル・円は109円がらみに反発。もっとドルの堅調が目立ったのはドル・ユーロで1ユーロ=1.1700ドルがらみとなった。ドル・ユーロは先週末に比べて、100ポイントのドル高・ユーロ安。

ドルの反発は、基本的には買い戻しだったでしょうが、対ユーロについては1.18ドルの中頃が重いこと、アメリカの株式市場の堅調を見てもドルを売り込みすぎること慎重になる理由があると思えること、などのドル反発理由があったと思える。一方日本では先週新たな金融緩和措置が打ち出されたことも、ドルの対円での反発に繋がったと思われる。「ドバイのG7では、(塩川大臣が欠席の中で)福井さんがものすごく張り切っていた」という出席者証言がある中で、日銀が行った緩和策は、少なくともドルの反発を促したようである。

今週はブッシュ大統領の来日を控えて、ドル安一辺倒ではない、時にドルの反発を織り込む神経質な展開になると考えられる。ドルが一時的にも反発すると見る理由は、先週末までの市場が「ドル安観測一辺倒」の展開でありポジションも傾いていると思われること、今週はそれへの反省が出てもおかしくない環境にあること、アメリカ株式市場の動きから見ると米国経済への悲観論にも時期尚早な面も否めないこと、などが背景。アメリカからも、一段のドル安を求める発言は出てきていない。

しかし、ドルが持続的に大きく反発する局面に入ったとは考えていない。ブッシュが強いドル、大きく反発するドルを欲することはないと考えられるし、ニューヨーク証券市場の波乱を誘わない状況でドルには軟調推移して欲しいと考えているはず。ブッシュにとって、来年の選挙は日々厳しい環境になっている。メイン・ストリートは依然として弱いドルを欲している。ただし、ブッシュは東京では為替に関しては「目立った発言」はしないと考えられる。「小泉と夕飯をしたい」と言って決まった首脳会談で、それほど細かい点が議論されるとは考えにくい。

今週の主なスケジュールは以下の通りです。

10月14日(火)

9月企業物価指数

南北閣僚級階段(ピョンヤン)

10月15日(水)

10月月例経済報告

福井日銀総裁定例記者会見

メキシコ大統領来日

米9月小売売上高

米10月NY連銀指数

米ページブック

スノー米財務長官、上院銀行委員会で10月15日までに議会に半年次為替報告を提出(遅れる可能性もあり)

スノー長官、ウォール街のエコノミストと会談

スノー長官、講演(コンファレンスボード)

EU首脳会議(~17日)

10月16日(木)

米9月消費者物価指数

米8月企業在庫

米9月鉱工業生産・設備稼働率

米10月フィラデルフィア連銀指数

スノー長官が米上院の政府関連住宅金融機関に関する

公聴会で証言

10月17日(金)

ブッシュ米大統領来日

米9月住宅着工件数

米10月ミシガン大学消費者信頼感指数

米9月財政収支

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》